

☎生活環境課 ☎22-1314

8月のごみ収集日程は下記の通りです。ごみはきちんと分別して、ごみの日の当日に出してください。また、ごみ袋は中身がこぼれないようにしっかり口を結び、簡単に解けないように出してください。テープ止めは禁止です。

誤った袋で出されたごみは収集されません。誤って出してしまい収集されなかった場合は一度持ち帰り、正しいごみ袋に入れ直して、次の収集日に出してください。

### ◆8月のごみ収集日予定表（日付は8月の収集日です。9月上旬の収集日も掲載しています）

地区名	越 河 齋 川 大 平	大鷹沢 白 川 小下倉	大鷹沢田中	福 岡 小 原	市街東北本線 東 側	鷹 巣	市街東北本線 西 側
ペットボトル (第1曜日)	7日(火) (9/4)	6日(月) (9/3)	3日(金) (9/7)	2日(木) (9/6)	3日(金) (9/7)	6日(月) (9/3)	1日(水) (9/5)
びん類 (第2・第5曜日)	14日(火)	13日(月)	10日(金) 31日(金)	9日(木) 30日(木)	10日(金) 31日(金)	13日(月)	8日(水) 29日(水)
缶 (第3・第5曜日)	21日(火)	20日(月)	17日(金) 31日(金)	16日(木) 30日(木)	17日(金) 31日(金)	20日(月)	15日(水) 29日(水)
その他のプラスチック (第3曜日)	21日(火)	20日(月)	17日(金)	16日(木)	17日(金)	20日(月)	15日(水)
もやせないごみ (第4曜日)	28日(火)	27日(月)	24日(金)	23日(木)	24日(金)	27日(月)	22日(水)
紙 類	火	月	金	木	金	月	水
容器包装 プラスチック	7・14・21 28(9/4)	6・13・20 27(9/3)	3・10・17 24・31(9/7)	2・9・16 23・30(9/6)	3・10・17 24・31(9/7)	6・13・20 27(9/3)	1・8・15 22・29(9/5)
もやせるごみ	火・金 3・7・10 14・17・21 24・28・31 (9/4・7)	月・木 2・6・9・13・16・20・23・27・30 (9/3・6)	月・水・木 1・2・6・8・9・13・15 16・20・22・23・27・29・30 (9/3・5・6)	火・水・金 1・3・7・8 10・14・15 17・21・22 24・28・29・31 (9/4・5・7)			

- 不忘・川原子地区のもやせるごみは、毎週水曜日に収集します。
- ごみは、必ず当日の午前8時30分までに集積所に出してください（収集車が回収する時刻に合わせての搬出や、前夜出しはしないでください）。
- 「もやせるごみ」と「もやせないごみ」の袋は、中身がどちらかわかるよう袋の表に印をつけて出してください。
- びんは、色により3種類（①透明、②茶色、③その他）に分けて、それぞれ資源ごみの袋に入れて出してください。
- 缶類とプラスチック類は、それぞれに分けて資源ごみの袋に入れて出してください。
- ◎スプレー缶や使い捨てライターのごみの出し方について  
次のことをきちんと守ってごみ出しをしてください。  
★スプレー缶などは、①中身を必ず使い切る。②必ず穴を開けること（風通しの良い所で）。  
★ライターは、ガスを使い切る。収集車の火災事故の原因になりますので、使い切っていないものは絶対に出さないでください。

### 「資源ごみ袋」はどうなるの？

7月1日からごみ袋が「レジ袋型」に変わりましたが、平成24年11月1日以降、これまでのごみ袋は使用できなくなりますのでご注意ください。ただし、平成24年7月1日から平成24年10月末までは、これまでのごみ袋は袋の種類にかかわらず「資源ごみ袋」として使用できます。



◀これまでのごみ袋は「資源ごみ袋」として、平成24年10月末まで使用できます

☆飼えない犬・猫の引き取り日のお知らせ ☎宮城県仙南保健所（大河原町字南129-1） ☎0224-53-3119

- 日時 8月2・9・16・23・30日（すべて木曜日）9:00～11:30および13:00～15:00（時間厳守）
- 場所 宮城県仙南保健所
- 犬・猫の引き取り手数料 生後90日以内は1頭につき400円、生後91日以上は1頭につき2,000円

応募方法

1人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0292 白石市大手町1-1 白石市総務課へ。はがき一枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

# 市民文芸

## 歌壇

岩崎 聰之介 選

子の継がざる田圃なれど此の年も植糸終はり  
たり畔に見渡す 後藤今朝雄  
日を受けて育ちたる野菜たのしみに挽きゆく  
朝の空気爽けし 佐藤喜和子  
枯れたると思うテッセン節なしてごま粒ほど  
の緑芽ぶかす 鈴木 茂子  
母の目を子のなき吾へ花束と朝摘み母とどけ  
呉るるひと 石田みどり  
そよ風がのせて来たれる花の香を思はず吸い  
こむ午後のひととき 菅野ちさよ  
母の日にクレマチス数輪くるる子よ花好きの  
われにはありがたきタカラ 遠藤 舞  
今どきはたちまち機械で植えおわるにきわし  
き昔の田植え懐し 八嶋 正子  
御衣香の根方にひとそと翅やすめマトシジミ  
チヨウ風を避けおり 寺崎 悦子  
病癒え帰るわが家のサルスベリ花ざかりなり  
吾を待つこと 平間 久子  
着い空やまはみどりに庭に花 軒の子つばめ  
黄の口五つ 高子うこん

評 一首目、四句切れのうた、うまく結句につなげている。心にかかることもある作者だが、田植えを済ませた喜びで一杯。  
二首目、さやけくある作者の姿が、確かに伝わってくる。  
三首目、よく見てみると、何とか咲きそう。うたでつづる花の日記か。

## 俳壇

山家 弘子 選

轟轟と飛沫の虹に包まるる  
初恋の痛み懐し飛ぶ虫 岩松 隆志  
金縁の目の可憐なる雨蛙 遠藤 忠臣  
草笛や微笑ほころぶ弁才天 和野 リエ  
生あらば逢える日もある若葉風 阿部はぎの  
翡翠や一四二四同じ枝 阿部はぎの  
岩澤 伍峯

## 柳壇

四電 英夫 選

坂の道登り下りに桐の花  
夏めくや傘寿の集い笑い満ち 石田みどり  
学舎の扉一新夏初め 大庭美智子  
古寺の著我の花散る裏の土手 寺崎 悦子  
跡部 祐子

評 一句目、天地を轟かせ真つ白に落ちる滝。その荘厳さは神秘的でもある。その滝に匂い立つばかりの虹が一滴の飛沫に日光が当たって生まれたのである。幻のような景に酔いしれる作者。  
二句目、昭和30数年ごろまでは蛍がぶつかるといって池のほとりや川辺は蛍の火の点滅でネオンのように明るかった。柳は蛍のイルミネーションであった。隣近所の子もたちには誘い合って蛍狩りをした。その時に芽生えた恋心。一方的であったのであろう。飛び交う蛍を見て、ふと思いついたのである。  
三句目、雨上がりの庭木の枝先にいる青蛙と出くわした。よく見ると目の縁は金色。何とも美しく可憐であることに気付いた句。

福運の手相が消えた金詰まり 草野 清  
口数が増えて手足が鈍くなり 大庭 良子  
我子が走るカメラも走る運動会 遠藤 行夫  
ケアハウス今は天国趣味生かす 佐久間とみ子  
花と雑草無言で争いしてる庭 阿部はぎの  
トキ果立ち暗い世相に灯が点る 村上 照夫  
一夜明け雨の恵みに緑増す 寺崎 悦子  
園庭にうぐいすの声子らの声 斎藤 典子  
おむすびも丸に三角あるじやない 阿部みさ子  
今日も行く七つ道具の三輪車 阿部みさ子

評 一句目、福運の相で順調に来た人生も思わぬ躓きが。手相と共に運も消えた。「金運の印相悲しい借用書」となると空しい。  
二句目、年と共に動作が鈍くなるのは自然の理。その分口数でカバーできるならまだまだ大丈夫。「返事は軽く腰重く」と言う事か。三句目、我が子を写そうと必死の様が目につく。「カメラも走る」がリアル。でも「追いつけない前を行くのは課長の子」と言う事も。

### 情報技術や交通手段が格段に進歩した現在、食料品でも嗜好品でも各地の名産品でも、昔と違い、欲しい品物を自宅にいながらにして手に入れられる手段がたくさん増えました。インターネットやカタログショッピング、通信販売専用の番組まである時代。どんな商品でも簡単に手に入れることができる、便利な世の中になったものです。

しかし、それと同時にさびしさも感じていきます。子どものころ、夕方になると親から買い物かごが必要な分のお金を渡され、夕飯の食材を近所の小売店に買いに行かされたものです。お店のおじちゃんやおばちゃんと話をしながら買い物をするので、お店の人は、近所のどここの息子であるかを覚えてくれますし、買物の時以外でも気軽に声を掛けてくれるようになりま

### 風間市長の「買う物」

昔の記憶の1コマです。今月、震災後の市民生活の回復と事業者の復興に寄与することを目的として、「白石城下「2割得盛」商品券」が発売されます。全取扱事業所で使える共通券（500円券×12枚、6千円券）と、小規模事業所のみで使える専用券（500円券×12枚、6千円券）、が1セットとなった商品券（合計1万2千円分）が1万円で販売されます。この商品券販売は、6月議会で補正予算として上程し認めていただいた施策ですが、地域経済の循環を長期的に後押しするため、3カ年続けることを予定しています。利用できる店舗や発売日、発売セット数などの詳細は、8月号と一緒に配布するチラシ（白石商工会議所発行）をご覧ください。

市内の小売店は震災後すぐに店を開け、地域住民や多くの人たちのために、ガソリン供給の困難な中、早朝から遠方へ仕入れに行き、店内のありとあらゆる物資を供給してくれました。店主も被災者でありながら、市民のためにご尽力いただき、私たちは大変助けられたことを忘れられません。今回の2割得盛券発売を起爆剤に、地域経済が回復することを期待しています。そして私たち消費者は、これを機会に地域の小売店にも足を運び、会話を楽しみながら買い物をしてみてはいかがでしょうか。

「白石城下「2割得盛」商品券」が白石市の自立復興の種となることを大いに期待しています。がんばって、白石！